

## § 3-4.

### 第3章のまとめ

- \* 肌色の明るさは顔の女性度を左右する。色白肌はより女性的に、色黒肌は女性的でない方向に印象を導くという可能性がある。但し、若干女性寄りの形態における肌色の作用は一定せず、評価基準にばらつきが生じ易い。
- \* 女性度という心理尺度においては「飽和点」が存在する可能性がある。形態的に男女どちらかのパターンが 3/4 (75%) 含まれていれば女性度は頭打ちとなり、それ以上の形態の男性化、女性化による印象の変化は小さくなる。また、色白肌は女性度における「飽和点」の形態条件をより緩やかな方向へとシフトさせる。
- \* 比較対象の存在により、そのみで観察された場合とは性別の印象が異なって感受される可能性がある。
- \* 顔パターンの合成比率と性別の印象は等間隔に変化するものではない。つまり、顔から得られる心理的な変化量は物理的な変化量との単純な比例関係によって定義されるものではないと考えられる。